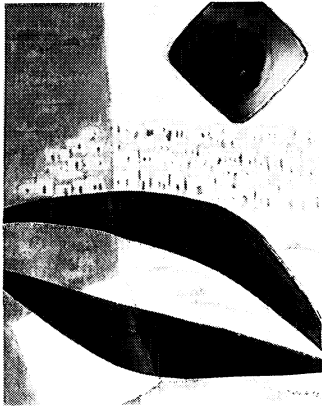


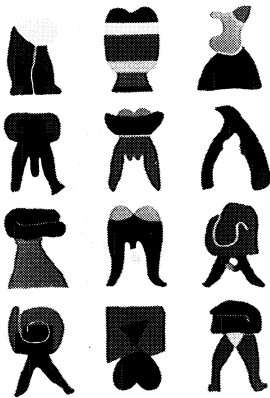
# 『抽象のかたち』

— 福島の4人 —

会 期 3月10日(木)～26日(日)  
会 場 県立美術館

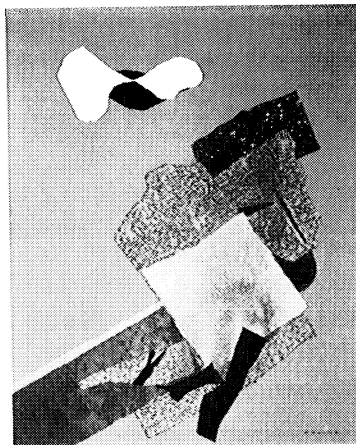


▲土橋 醇

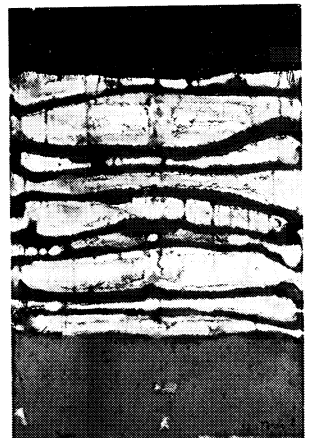


▲鎌田 正蔵

戦後の洋画界では、写実絵画と並んで抽象画やシュールレアリスムへ「超現実主義」絵画などが大きな傾向となつていきます。福島においても、抽象的傾向の多彩な絵画が生み出されました。鮮やかな赤と黒の色彩表現によって、フランスで高く評価された土橋醇（一九一〇—七八／郡山市出身）、郡山を拠点にシュールレアリスムの傾向の作品を発表する鎌田正蔵（一九一三—三春町出身）、和紙などの紙素材を用いた独自の作風を展開するいわき在住の若松光一郎（一九一四—湯本町出身）、質感のある画肌によって独特の世界を作り出し、期待されながら早折した佐藤辰治（一九一六—六三／小野町出身）はその代表的な作家と言えるでしょう。いずれも一九一〇年代に生まれた彼らは、光風会展、新制作協会展、独立展などに意欲的な作品を発表し、福島の前衛画家として時代の先頭を歩んできました。今回の常設展特集ではこの四人の洋画家を取り上げ、当館所蔵品の中から六〇年代、七〇年代を中心に制作された三十点余りの作品をご覧いただきます。



▲若松光一郎



▲佐藤 辰治

休館日  
月曜・祝日の翌日（三月二十一日）  
料金（常設展共通）  
一般・大学生 二五〇（二〇〇）円  
高 校 生 一五〇（二〇〇）円  
小・中学校 一〇〇（八〇）円  
（ ）内は二十名以上の団体料金